

7 番（小川義昭君）

次に、白山市公式アプリの作成についてお伺いいたします。

昨年の6月会議にて「市が保有する各種データを2次利用が可能な使いやすい形にして広く一般に公開し、誰もが自由に使えるオープンデータ化すれば、非常に有用な情報の提供が可能となる。産官学が連携したオープンデータ環境整備を早急に図るべきである。」との提言を行いました。その提言に対し西川企画財政部長は「行政情報のオープンデータ化を図ることは非常に有効な施策だと考えている。今後は、この内容を十分検討して、本市においてもオープンデータ化を早急に進めたいと考えている。避難場所の情報、観光情報を優先的に取り組んでいきたい。」と非常に前向きな答弁をいただき、早速、オープンデータ化の推進に向け、オープンデータの公開を開始されました。西川部長初め関係所管部署の皆さんに敬意と感謝を申し上げます。

私も早々に、金沢市、能美市へオープンデータ化について、それぞれの市の担当者を訪ねました。金沢市がオープンデータに向け取り組んだきっかけは、山野金沢市長とベンチャーIT企業経営者とのミーティングで「アプリ開発のために、公共データを自由に利用できる環境が欲しい」との申し出があり、その要望に応える形で市有施設データをオープンデータとして公開したとのことです。そして金沢市は、ベンチャーIT企業と連携し、公式金沢市アプリの作成を行いました。その製作に要した費用は150万円だそうです。

また能美市は、スマートフォン用の観光アプリ作成のため、観光名所や飲食店、宿泊施設などを盛り込んだオープンデータを公開し、民間企業に観光アプリの開発を依頼し、「観光で能美市を訪れた方に、能美市で生活をする人に。それぞれの利用目的にあわせた、能美スタイルを。」とのキャッチフレーズで、昨年の6月能美市観光アプリを作成いたしました。ちなみに、開発にかかった費用は250万円だとのことです。

そこで本市としても、ベンチャーIT企業と連携して、お知らせ、イベント、観光・公共施設情報など、市が保有する公共データを盛り込んだ、市民の皆さんや観光客を対象とした白山市公式アプリを作成してはいかがでしょうか。

また、市は早々に、学校、避難所、AEDなどの公共施設情報、そして、人口、世帯、行政、財政など18の統計情報をオープンデータ化して公開いたしましたが、今後、一層、公共データを自由に利用できる環境を整備し、民間によるアプリ開発を啓発、推進させるためのオープンデータによる情報公開が必要と考えますが、いかがでしょうか。御見解をお伺いいたします。